

令和4年度（2022年度）行政評価シート

令和4年7月28日

評価者	環境部長 能條裕子
-----	-----------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理
目標とするまちの姿	「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、市民、事業者、市等の連携・協働により、ごみの発生抑制を最優先とした3R(発生抑制、再使用、再生利用)の取組が進み、循環型社会が形成されています。			
主な取組	<p>(1)ごみの発生を抑えた環境配慮型社会の構築 家庭や事業活動から排出されるごみの中で、特に食品ロスや使い捨てプラスチック製品に対する発生抑制を行うとともに、ライフスタイルの見直しや生産販売事業者への啓発を図り、市民、事業者、市等が協働して実施してきたごみの3R(発生抑制・再使用・再生利用)の取組を継続します。 また、「かまくらプラごみゼロ宣言」に基づき、事業者などと協働を図りながら、使い捨てプラスチック製品の利用廃止に向けた取組を推進します。</p> <p>(2)市民生活に対応した分別・収集体制の構築 家庭から排出されるごみの収集について、だれもが不自由なく安心してごみの排出ができるよう、多様な市民生活に対応した効率的かつ効果的な分別・収集体制の構築に取り組みます。</p> <p>(3)ごみの適切な処理体制の構築 市施設に集めたごみについて、ごみ処理に係る最新技術や民間活力の活用、広域連携、費用負担の軽減などを踏まえ、環境に配慮した安定的で効率的なごみ処理体制の構築に取り組みます。 なお、災害時には「鎌倉市災害廃棄物処理計画」に基づいた対応を行います。</p>			

1 成果指標

成果指標①	市内から排出されるごみの総排出量					出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告			
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考	
平成30年度	トン	目標値	59,771	57,556	56,837	56,388	55,935	55,488	R3 ごみ処理基本計画の見直しに伴い 目標値を修正	
58,623		実績値	60,471	未定						
		達成率	98.8%	—						
成果指標②	市内のごみ焼却量					出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告			
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考	
平成30年度	トン	目標値	29,639	27,564	26,758	26,316	24,885	15,522	R3 ごみ処理基本計画の見直しに伴い 目標値を修正	
29,992		実績値	29,994	28,483						
		達成率	98.8%	96.8%						

成果指標③	市民1人1日あたりのごみの排出量					出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成30年度	グラム	目標値	946.9	927.6	920.1	916.8	913.5	910.2	R3 ごみ処理基本計画の見直しに伴い 目標値を修正
931.9		実績値	936	未定					
		達成率	101.2%	—					

成果指標④	リサイクル率					出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成30年度	%	目標値	53.0	53.0	54.8	55.0	55.3	71.7	速報値(9月 未予定)
52.5		実績値	52.7	未定					
		達成率	99.4%	—					

成果指標⑤	マイバッグを利用している市民の割合					出典	市民アンケート調査		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
令和2年1月	%	目標値	70.0	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0	
63.4		実績値	未実施	92.0					
		達成率	—	127.8%					

成果指標⑥	マイボトルを利用している市民の割合					出典	市民アンケート調査		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
令和2年1月	%	目標値	55.0	58.0	61.0	64.0	67.0	70.0	
50.9		実績値	未実施	60.2					
		達成率	—	103.8%					

成果指標⑦	燃やすごみのうち未開封の食品の量					出典	令和3年度(2021年度)ごみ処理基本計画アクションプログラム(実績)及び家庭系燃やすごみ組成調査結果報告より算出		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成30年度	トン	目標値	376	337	298	259	220	179	令和2年度は 予算見直しに伴い 未実施
415		実績値	未実施	603					
		達成率	—	55.9%					

2 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	2,591,289	2,629,569				
人件費	770,645	714,017				
総事業費	3,361,934	3,343,586				

3 担当部評価

(1)「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

環境部

①②③④本市のごみ減量・資源化・適正処理に係る基本的な方向性を定めた「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画」及び各年度毎に策定するアクションプログラムに基づく取組を推進した。特に、事業系ごみの全量資源化を実現するための実証実験を実施し、約1,800トン処理したことなどから、焼却量は、平成30年度から引き続き30,000トン以下(28,483トン(速報値))を保つことができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により在宅時間が増え、家庭系の片づけごみが増加した。
リサイクル率も前年同様に高い水準を確保できる見込みである(集計中:9月末速報値確定予定)。
⑤⑥プラ製レジ袋有料化等の新たな生活スタイルが定着するとともに、環境意識の高まりを受け、マイバッグ及びマイボトルの普及が進んでいる。
⑦家庭系ごみの組成調査(サンプル調査による推計値)の結果では、燃やすごみの中に未開封食品の廃棄が見受けられる状況である。前年度と比較して、未開封食品のうち生鮮品や加工品の食品ロスが増えており、新型コロナウイルス感染症の影響により在宅時間が長くなったことが要因と考えられる。更なる意識の醸成、フードドライブの活用による未利用食品の削減を図る必要がある。

(2)今後の方向性

環境部

「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画」及び「鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画」の実現に向けて、燃やすごみの削減や新たな資源化の推進等のさらなるごみの減量・資源化に係る施策を展開する。施策の展開にあたっては、多様な市民生活に配慮し、効率的かつ効果的な収集・分別方法の構築に取り組む。また、2市1町における安定的なごみ処理体制の構築に向け、広域化実施計画の実現に必要な施設整備を進めるとともに、引き続き調査及び協議を進める。
使い捨てプラスチック製品及び食品ロス削減施策については、自発的に取り組むことができるよう市民及び事業者等への啓発による意識の醸成を図り、引き続きごみの3R(発生抑制・再使用・再生利用)の取組を進める。
事業系一般廃棄物処理手数料の見直しを行うことで、飲食店などの事業者から排出される未利用食品の発生抑制を図る。

(3)施策の方針にひもづく事務事業の評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	環境-01	環境運営事業		128,747	33,924	162,671	現状維持	A	現状維持
	環境-03	ごみ収集事業		695,180	27,961	723,141	改善・変更	A	改善・変更
	環境-04	ごみ資源化事業		796,594	55,161	851,755	改善・変更	A	改善・変更
	環境-05	3R推進事業		30,600	48,879	79,479	改善・変更	A	改善・変更
重	環境-07	廃棄物処理施策推進事業		64,149	3,794	67,943	拡充	A	拡充
	環境-08	廃棄物処理施設のマネジメント事業		76	1,517	1,593	改善・変更	A	改善・変更
	環境-09	名越クリーンセンター管理運営事業		60	759	819	現状維持	A	現状維持
	環境-10	最終処分事業		153,440	4,552	157,992	現状維持	A	現状維持
	環境-11	ごみ処理広域化計画推進事業		0	9,863	9,863	拡充	A	拡充
重	環境-13	廃棄物処理施策推進事業		0	759	759	拡充	A	拡充
	環境-21	名越クリーンセンター管理運営事業		443,873	43,565	487,438	改善・変更	A	改善・変更

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	環境-22	今泉クリーンセンター管理運営事業		120,856	56,139	176,995	改善・変更	A	改善・変更
	環境-23	名越クリーンセンター収集事業		23,825	264,028	287,853	改善・変更	A	改善・変更
	環境-24	今泉クリーンセンター収集事業		14,244	144,801	159,045	改善・変更	A	改善・変更
	環境-25	笛田リサイクルセンター管理運営事業		157,925	18,315	176,240	現状維持	A	現状維持

(4) 貢献度に関する分析

環境部

本施策は、名越クリーンセンター稼働停止後の安定的なごみ処理体制の構築が最大の課題となっている。日常的な施設運営、ごみ収集などの既存施策の着実な実施と、市内に必要となる施設整備、逗子市における焼却処理の協議、新たな資源化の実施などの新たな施策を進めることにより達成できるものであり、全て貢献度が高い施策である。

中でも特に貢献度が高い施策及びその理由は次のとおり。

環境-07 廃棄物処理施策推進事業

ごみ処理基本計画及び2市1町広域化実施計画(以下「計画」という。)では、名越クリーンセンター稼働停止後は徹底した資源化を進めた上でどうしても燃やす必要があるごみは逗子市及び民間施設で処理することとしている。その中で、現在の本市の燃やすごみの約1/3を占める事業系可燃ごみについては全量を資源化することとしており、確実な資源化を行うため、令和3年度は民間の縦型乾式メタン発酵施設における実証実験を行った。その結果、令和4年度からの本格実施に結びつけることができたことから貢献度をAとした。

環境-11 ごみ処理広域化計画推進事業

逗子市における焼却処理にあたっては、地方自治法に基づく事務委託(議決に基づく規約の制定)が必要である。また、スケールメリットを求めた資源化の処理先の検討を進めることとしている。そのためには、職員間の信頼関係に基づく継続した協議が必要となる。令和3年度は事務レベルで緊密に連絡を取り、実現に向け貢献したことから貢献度をAとした。

環境-13 廃棄物処理施策推進事業

名越中継施設稼働停止後の中継施設の整備は必須である。令和4年度から準備(発注支援業務委託)に入ることについて、地元自治町内会で構成する協議会の了承を得ることができたため、貢献度をAとした。